

# 都市再生整備計画 事後評価シート

## 仏生山地区

令和5年4月

香川県高松市

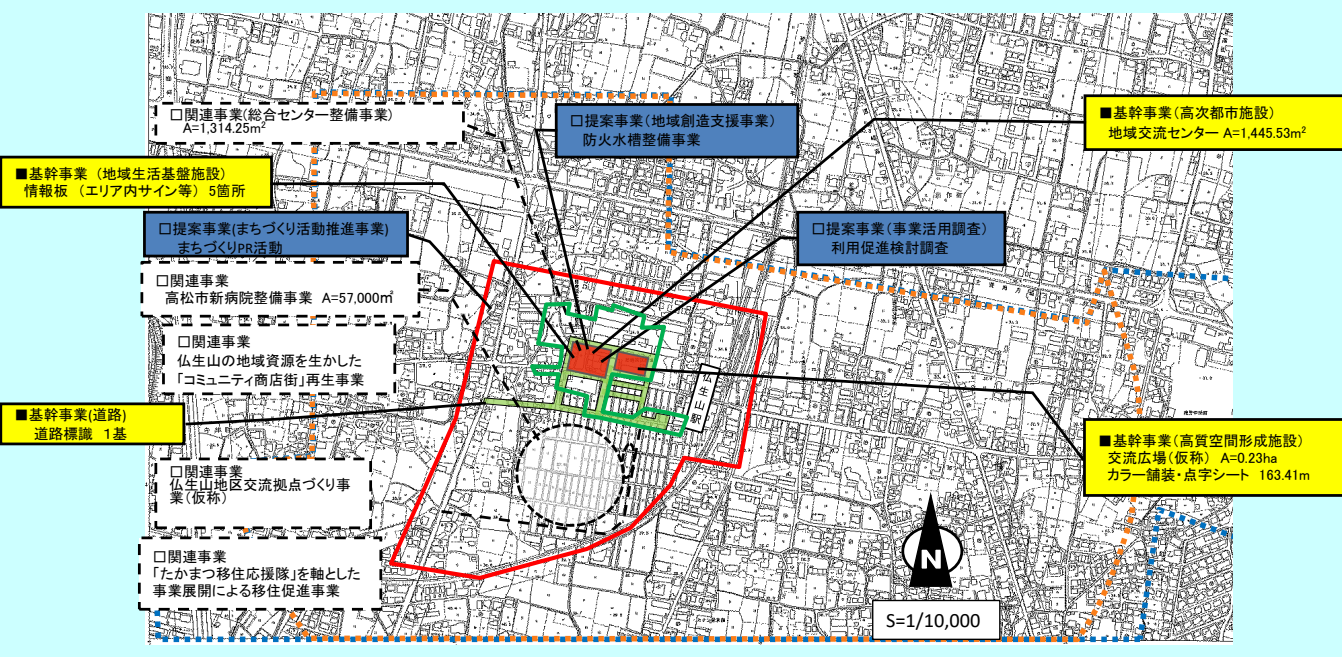
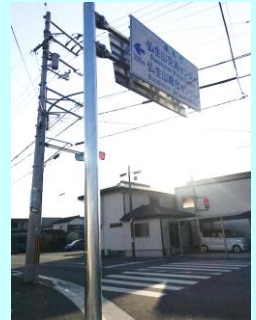
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	香川県		市町村名	高松市		地区名	仏生山地区			面積	30 ha		
交付期間	平成30年度～令和3年度		事後評価実施時期	令和4年度		交付対象事業費	878.0百万円	国費率	49.40%				
1) 事業の実施状況	事業名												
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	地域生活基盤施設(情報板)、高質空間形成施設(交流広場)、高次都市施設(地域交流センター)										
		提案事業	事業活用調査: 利用促進検討調査、地域創造支援事業: 防火水槽整備事業、まちづくり活動推進事業: まちづくりPR活動										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	なし										
		提案事業	なし										
	新たに追加した事業	基幹事業	道路(道路標識) 高質空間形成施設(カラー舗装、点字シート)		道路(道路標識): 施設利用者を地域交流センターへ誘導するため、県道高松香川線に道路標識を設置する。 高質空間形成施設(カラー舗装・点字シート): 点字シートを設置することで快適な歩行者空間を確保し、施設利用者を仏生山駅から地域交流センターへ誘導するため、北側エリア内の歩道をカラー舗装(塗布型舗装、グレー)とする。				影響なし				
提案事業		なし											
交付期間の変更	当初	平成30年度～令和3年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響									
	変更	-											
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	指標1	地域交流施設の利用者数	人/年	0	H28	36,000	R4	-	55,800	○	あり なし	令和4年3月の閉館後、コロナ禍にあったものの、11月10日現在の来館者数は34,812人であり、このまま推移すると3月末までの来館者数は約55,800人となり、目標値を大きく上回る見込みである。	
	指標2	鉄道利用者数	人/日	3,196	H28	3,500	R4	-	3,061	△	あり なし	ことん仏生山駅の1日あたりの平均利用者数(令和3年度実績)は3,061人である。現在は回復傾向にあり、当該事業による効果のほか、新病院の開院及びそこに至る道路の整備、パークアンドライド駐車場の開設や、ことん伏石駅の開業によることんへの利便性の向上、地域の人口増加など、複合的な要因があるものと考えられる。	R5.6
	指標3	マルシェ・産直等の年間開催数	回/年	0	H28	12	R4	-	12	○	あり なし	コロナ禍にあったものの、令和4年4月から11月までの8か月間に7回開催した。ウィズコロナにおけるマルシェ等の開催を予定しており、最終目標に近い開催回数が見込める。	
	指標4												
	指標5												
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	その他の数値指標1												
	その他の数値指標2												
	その他の数値指標3												
4) 定性的な効果発現状況													
5) 実施過程の評価	実施内容					実施状況					今後の対応方針等		
	モニタリング	なし				都市再生整備計画に記載し、実施できた	都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					
	官民連携による取組	高松市地域交流センター(仮称)等施設管理運営計画策定ワークショップ				都市再生整備計画に記載し、実施できた	都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	●				
	持続的なまちづくり体制の構築	なし				都市再生整備計画に記載し、実施できた	都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					

## 様式2-2 地区の概要

### 仏生山地区(香川県高松市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
	指標	単位	値	水準	値	水準	値	水準
<p>大目標 本市の目指す「多核連携型コンパクト・エコシティ」の実現のため、中部東地域の地域交流拠点として、利便性の高い交流基盤の整備を図り、多様な文化を実現するとともに、災害拠点病院の指定を受ける新病院と連携した防災機能の強化を図ることにより、災害に強いまちづくりを実現する。</p> <p>目標1 多面的な次世代型の交流ができる立地する門前町仏生山の歴史・文化を取り込み、行政機能や防災機能を有した地域のシンボルとなる施設等を整備し、都市機能及び居住の誘導を図るとともに交流促進による賑わい創出や都市活力の向上を目指す。</p> <p>目標2 ことでん仏生山駅を中心とした、公共交通の利用者を確保・維持するとともに地域コミュニティの維持・活性化を目指す。</p>	地域交流施設の利用者数	人/年	0	H28	36,000	R4	55,800	R4
	鉄道利用者数	人/日	3,196	H28	3,500	R4	3,061	R3
	マルシェ・産直等の年間開催数	回/年	0	H28	12	R4	12	R4



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>指定管理者等が主催する、マルシェ等のイベント開催により、交流の場の提供やにぎわい創出につながっている。</li> <li>行政組織の中核的機能を担う総合センターの合築により、地域における都市機能の集約維持とその向上につながっている。</li> </ul>
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>整備した施設について、地域住民等の利活用を推進する取組を行うとともに、利用しやすい環境、サービス提供に向けた維持管理を行う。</li> <li>施設にて、定期的なマルシェ等のイベントを開催することで、隣接する公共交通機関の乗客を安定的に確保する。</li> <li>地元コミュニティや施設の指定管理者との運営や、効果的なイベントの開催を継続して取り組み、交流や賑わいの創出を図る。</li> </ul>